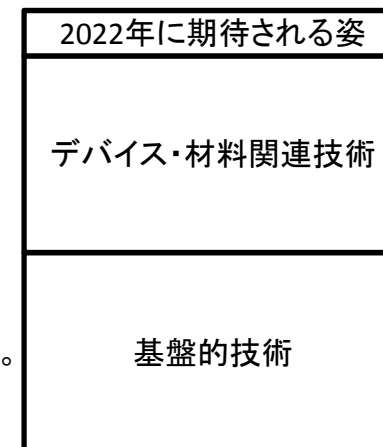


技術ポテンシャルマップの更新版について

(1) マップの構成について

- ・マップの一番上に、応用先・適用先ごとにユーザー視点で“2022年に期待される姿”を記載。
- ・デバイス・材料関連技術(1ページ目)
 - 横軸: 応用先・適用先視点を内閣府のGDP統計の産業分類を参考に設定。
上記産業分類に“エネルギー”、“医療”を追加
 - 縦軸: マッピングの目安として“デバイス”～“材料”の軸を設定。
- ・基盤的技術(2ページ目)
デバイス・材料関連技術を支える、応用先・適用先の広い技術を、“加工・プロセス”、“シミュレーション・設計・理論”、“計測・評価”、“安全性”に分類してマッピング。



(2) 技術項目の粒度について

- ・記載の各項目は可能な範囲で大きい粒度で設定(マップ上の青い枠)。
(例: 特定の材料、その材料のための加工技術、その材料を応用したデバイスは、同一の項目に設定)

(3) 2022年における技術スペック、到達点(状態)

- ・記載の技術項目(青枠)ごとに、2022年時点での技術スペック、到達点(状態)を個票から抽出して記載(赤字)。

(4) 提案先候補の協議会等との関連

- ・マップ上部の“2022年に期待される姿”に関して、関連する協議会等を色つきの☆でラベリング。
 - 緑: グリーンイノベーション
 - ピンク: ライフイノベーション
 - オレンジ: 復興・再生
 - 青: 産業競争力の強化
- ・同様に記載の技術項目(青枠)ごとに、提案先候補の協議体等を色つきの○でラベリング。